

**本質的な問い** 天応のまちで災害と向き合いどう生きるか。

**単元名** 語り継ぐ災害 ～風化させない災害の記憶と教訓～

**児童生徒の実態**

- ・総合的な学習の時間で学んだことを、各教科等の学習や生活環境に活かさないか考える生徒 64%
- ・地域や社会をよくするために何をすべきか考える生徒 79%
- ・3～6年の総合的な学習の時間ではいずれも防災をテーマに学習をしている。

**目指す具体の姿（育成を目指す資質・能力）**

- ・地域や家族、専門家など多様な立場の人から、西日本豪雨災害に関する情報を集めることができる。（情報収集力）
- ・災害の記憶が風化していく背景（体験の有無、発信不足、社会構造の変化など）について、資料やインタビューから仮説を立て、分析することができる。集めた情報の関連性を見出し、自分なりの主張や提案を組み立てて発信することができる。（情報活用力・批判的思考力）
- ・災害を知る世代としての自覚を持ち、学年や地域を越えた他者と関わりながら、共通の目的に向けて「自分が伝える担い手だ」という責任感をもって主体的に行動することができる。（協働性・挑戦心）

**単元を貫く問い** 西日本豪雨災害の教訓は、どうすれば未来に伝え続けられるのだろうか。

【探究課題】 西日本豪雨災害の記憶と教訓を風化させず、命を守る力として未来につないでいくために、今の自分たちにできること】

**【第3次】（15時間） 課題 西日本豪雨災害の教訓と記憶を次の世代に伝えよう。**

個別の問い

- ・絵本の構成はどのようにしようか。
- ・この文章の表現で伝わるだろうか。
- ・どうしたら時間の経過を表現できるだろうか。
- ・その出来事は事実に基づいているのだろうか。
- ・どの写真を使ったら効果的だろうか。
- ・説明だけでなく、どうすれば園児に当時の災害の怖さが伝わるだろうか。
- ・園児たちが安全に西条公園まで行くためにはどうしたらよいだろうか。

めぐみ園

家族・地域の人

西条公園

市役所

呉工業高等専門学校

地域の人

（しかけ）

- ・地域のこども園の園児に、災害の教訓や記憶を継承し、記念する場としての願いが込められた天応西条公園を知ってもらう企画にチャレンジする。

**【第2次】（20時間） 課題 私たちができることは何だろう。**

個別の問い

- ・何を伝えれば風化を食い止めることができるだろうか。
- ・災害の「怖さ」とはどのようなものだろうか。
- ・「天応西条公園」の整備に込められた思いは何だろう。
- ・誰に、何を伝えるべきだろうか。
- ・どの方法で伝えることが効果的だろうか。
- ・同じ方法でも分類の結果が違うのはなぜだろうか。

これまで学んだ防災知識

当時の新聞記事・写真・映像

小中一貫全国サミット

市役所の人

天応西条公園

呉工業高等専門学校

地域の人

天応学園の児童生徒

（しかけ）

- ・全国サミットで、全国から来た先生に自分たちの探究を語る場を設定する。

**【第1次】（10時間） 課題 本当に“忘れられつつある”のか。 ～風化の実態を探る～**

個別の問い

- ・「風化している」とはどういうことを指すのだろうか。
- ・新聞では風化していると言っているが、天応ではどうだろう。
- ・年齢によって覚えている内容や関心は違うのだろうか。家族は、地域は。
- ・アンケートの対象で少なかった高齢者から意見を集めるにはどうした良いだろうか。
- ・何を伝えれば風化を食い止めることができるだろうか。
- ・西日本豪雨災害の記憶や教訓について、地域の人たちは何を残してほしいのだろうか。

後期生

市民センター

お茶の間サロン

コミュニティースクール

新聞

呉工業高等専門学校

家族・地域の人

（しかけ）

- ・中国新聞の記事を読み、「天応ではどうだろう？」と問題を提起する。アンケートの結果を年代や避難経験ごとに色分けして模造紙に貼り、情報の整理・分析して生徒の思考を支援する。

**3サイクル 「西日本豪雨災害の教訓と記憶を次の世代に伝えよう。」**

【課題の設定】  
・めぐみ園の園児たちに西日本豪雨の記憶と教訓を伝えるための企画を行うことを確認する。

・めぐみ園の園児に西条公園と自分達が総合で取り組んでいることを紹介することになりました。私たちの総合の目的は西日本豪雨の記憶と教訓を次の世代に伝えることなので、とても良い機会になると思います。しっかりと伝えられるように頑張ります。

【まとめ・表現】  
・めぐみ園の園児たちに西日本豪雨の記憶と教訓を伝える。

・読み聞かせをして、園児さんが絵本を読み終わった後の感想で、絵本の主人公である「祈りの石」の気持ちになって考えてくれたことを知り、嬉しかったです。この絵本を図書メディアセンターに置いてもらって、これからも読んでもらえるようにしたいです。



**2サイクル 「私たちができることは何だろう。」**

【課題の設定】  
・風化を食い止めるための取組として、「絵本作成」と「SNSでの情報発信」を行うことを決める。

・いよいよ風化を食い止めるための取組のスタートだなと感じました。私は絵本班ですが、新しくできた西条公園をテーマにしたらいなと考えています。絵本を通して、西日本豪雨について知ってもらいたいです。

【まとめ・表現】  
・全国サミットで西日本豪雨の風化の現状を発信する。

・全国から集まったたくさんの先生方に西日本豪雨の風化の現状と私たちの計画している取組について知ってもらえました。



**1サイクル 「本当に“忘れられつつある”のか。～風化の実態を探る～」**

【課題の設定】  
・西日本豪雨災害は風化しているのだろうか。  
・天応地区の人達はどのように考えているのだろうか。

・私たちはこれまで総合で防災について学習してきたから、風化はしていないけど、災害を経験していない人はもしかしたら違うのかもしれないと思いました。

【まとめ・表現】  
・風化させないための取組を決定する。

・私は「絵本」の作成に取り組むことを決めました。中身をしっかりと考えれば、防災フェスのような大規模なイベントをしなくても、災害の記憶や教訓を伝えることができるのではないかなと思ったからです。



**西日本豪雨の記憶と教訓**

**次の世代に引き継ぐ！**

**挑戦 発信 責任**

**次の世代に記憶と教訓を伝える**



**風化を防ぐ取組を形にする**

**絵本作成**

**動画作成**

全国サミットで取組を発表



課題の設定

**西日本豪雨災害は風化しているのか？**

まとめ・表現

情報の収集

**天応地区の実態調査**

整理・分析

【情報の収集】  
・呉高専の学生さんに製作段階でアドバイスをもらう。

・伝える相手が園児だったので、わかりやすい言葉を使っていたのですが、それでは災害の発生から公園ができるまでの時間の経過で伝わりにくいとアドバイスを受けました。これから班でこの問題を解決するために、どのように工夫していくか考えていきます。

【整理・分析】  
・呉高専の学生さんからのアドバイスを整理し、改善していく。

・アドバイスを受けて、砂防ダムの画を追加しました。そうすることで、公園ができるまで7年という長い時間を表現できたのではないかと思います。この絵本を園児の前で読むのが楽しみです。

・園児に災害当時の様子を説明するために、当時と現在の風景を比べることになりました。ミラーを目印にして話すことで、被害の大きさと災害の怖さがより伝わるのではないかと思います。



園児への説明資料



自作の絵本

【情報の収集】  
・新しくできた防災機能を備えた西条公園について、市役所の人から話を聞く。

・西条公園に込められた願いや、防災機能について知ることができました。自分は初めて行きましたが、とても良い公園なのでたくさんの人達に西条公園について知ってもらいたいです。



【整理・分析】  
・収集した情報を整理し、伝えたい記憶や教訓を整理する。

・文章を小さい子向けの表現に書き換えました。どれくらい読めるのか、読み仮名をどれくらい付けるかなど、班のみんなと話し合いながら修正していきたいと思います。



・今日は西条公園に取材に行きました。西条公園に込められた思いなど、詳しいことを聞けて良かったです。今日の学びをこれからの学習に最大限活かせるように頑張りたいです。

【情報の収集】  
・風化の実態を知るための方法を考える。  
・地域の人達が集まる、お茶の間サロンでアンケート調査を実施する。

・地域の人達から思いや考えを聞いて良かったです。  
・自分が思っているよりも、地域の人たちは風化が進んでいると考えていることが分かりました。



【整理・分析】  
・収集した情報をどのように整理・分析するか考える。  
・呉高専の学生の協力を得て、アンケート結果を多面的・多角的に分析する。

・すごい専門的な分析で驚いたけど、データをいろいろな見方で考えることができました。

分析してみて 「時間の経過」が一番の要因。時間の経過は止められないが、時間が経っても残していかなければならない記憶があるのではないかな。

